

---

**善意は偽善と独善に。**

霧夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

善意は偽善と独善に。

### 【著者名】

Z5056A

霧夜

### 【あらすじ】

僕が君のためにならない事をするなんてありえない。なのになぜ、君はそんなに恐ろしい？なぜ怒っている？なぜ？

(前書き)

もっと怖いホラーにしたかったんですが。  
また一人称です。

僕はあの時、見捨てて逃げた。

この世でただ一人の、愛しき人を。

ああ。

酷く身勝手なのは解つてゐるんだけど。

でも僕は、怖かつたんだよ。

本当に本当に、恐ろしかつたんだ。

僕という存在の内面は、あの時確かに、恐怖で満たされていたんだ。いかなる言葉を用いても表現し得ない感情で、溢れ出す寸前だつた。言い訳にもならないような戯れ言だと、自分でも解つてゐる。死んでしまいそうな程。

僕は、君が怖かつた。

だつて。

君の指に触れて、知つた。

君の指は、氷柱みたいに硬く、冷たかつたんだと。

君の顔を見つめて、気付いた。

君の顔は、陶器人形のように、張り付いた表情で、歪んでいたんだ

と。

君の口を舐めて、悟つた。

君の口は、熱い吐息ではなく、鮮紅色の液体を吐き出していたんだと。

だから走って逃げた。

君を一人置き去りにして、みつともなく逃げた。  
一目散に。

だから、ごめん。

いい加減許してくれないか。

謝ろう、頭を下げて。

何度も、何度も。

君の気が済むまで。

怖いんだ。

でも僕は、偽りなく君が大好きなんだよ。  
それは嘘じゃない。

君の今の姿でも、もちろん愛しているよ。

もつとも、僕が君をそんな風にしたんだけど。

そつか。

だから怒ってるのか。

ああ。怖い。  
やめてくれ。

やめてくれ。  
お願ひだ。

謝罪なら、幾らでもするから。

心から、僕は君を愛しているんだ。  
だからこその行動だったのに。

そのままの、美しい君でいて欲しいと思つて。あんな風に、醜くな  
ると知らなくて。

死んだら綺麗なままだと信じてたから、君の首に包丁を突き立てた  
のに。

ああ。

やめてくれ。

君にそんな事は出来ない筈だ。

だって君はもう。

僕が、君を

『ぶつひ』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5056a/>

---

善意は偽善と独善に。

2010年12月10日20時33分発行